

入局者自己紹介



神谷 尚宏

出身大学：
東北大学
卒業年：
平成 14 年
初期研修病院：
聖路加国際病院

平成29年10月より入局させていただきました、神谷尚宏と申します。

東京の高校から一人暮らしをしたいという不純な動機で東北大学へ入学、在学中に休学し半年間ほどオーストラリアを放浪したのち、平成14年に何とか卒業し医師となりました。

聖路加国際病院で前期後期4年間の小児科研修を行い、一般小児科診療やNICUに加え、白血病や固形腫瘍の児のトータルケアを学ぶ機会に恵まれました。北九州市立八幡病院で2年間一般小児科診療に従事した後、血液・腫瘍を専門とすることを志し聖路加病院小児科へと戻りました。このころから森尾先生のご厚意により、週1回午後には寺田さんに付いて実験の見学をさせていただくようになりました。研究と臨床が同時に行われていることに感動する日々でした。また水谷先生にお声をおかけいただき、平成22年より社会人大学院生として、こっそり東京医科歯科大学発生発達病態学の一員に加えていただいております。

そのような中、かねてより興味があったがん免疫細胞療法の研究を行っているDario Campana Labへ留学する機会をいただき、平成23年8月より国立シンガポール大学小児科にて細胞治療の研究を開始しました。留学直前には高木先生はじめ実験室の皆様にご指導いただき、この経験は留学生活において大きな助けとなりました。研究はとにかく楽しく、あっという間に6年間が通過、家族を抱えたまま浦島太郎へと一直線であった私を森尾先生に拾っていただき、研究で学んだことを臨床の場に生かしたいという思いとともに平成29年10月より血液・免疫グループの病棟医として働かせていただいております。

上記経過の通り、放浪癖・注意障害を有しておりますが、少しでも皆様のお役にたてますよう尽力してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



金田 朋也

出身大学：
順天堂大学
卒業年：
平成 27 年
初期研修病院：
佐久総合病院

はじめまして、平成29年に入局させていただきました金田朋也と申します。後期研修一年目は大学で、二年目の現在は草加市立病院で働かせていただいております。一年目から専門性の極めて高い環境で学ばせていただき常に刺激を受けました。入院が長期化する児も多く濃密に治療に関わることができたスタートの一年だったと思います。現在は一般診療がメインで、病棟患者の入退院の回転が速く着いていくのに必死ですが、治療によって病態の改善を体で感じることができ日々新しい知識を吸収しております。

医師になった頃から小児科医を志していましたが、医師として成人分野も経験しておきたいと考え、初期研修は長野県の高齢化の進んだ地域で研修をさせていただきました。訪問診療や総合診療などを通じて地域の方々との密接な関わりを持つことができ、地域の方々にとっての医療の身近さを実感できた二年間でした。環境や関わる疾患は異なる部分も多いですが、小児領域においてもご家族や患児の身近な存在でありたいと考えております。将来の専門分野についてはまだ未定ですが、小児科においても専門分野はもちろんのこと、幅広い視野で診療できるよう一般診療を経験する中で方向性を見出したいと思っております。

小児科医として第一歩を踏み出せたことに幸せを感じつつ、しっかりと責任を持って診療に向き合いたいと思っております。まだ未熟で至らない点が多いと思っておりますが、これからも初心を忘れず小児医療に精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願申し上げます。



高井 詩織

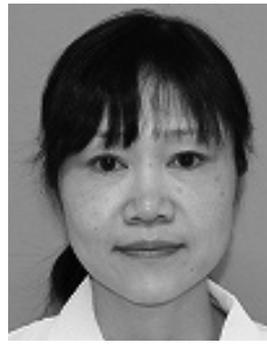
出身大学：
東京医科歯科大学
卒業年：
平成 27 年
初期研修病院：
東京医科歯科大学プログラム

平成29年度に入局させていただきました高井詩織と申します。

小さい頃からずっとこどもに関する仕事をしたいと考えていましたので、医学部に入学したときから志望科は小児科でした。ようやく夢が叶い、後期研修1年目は川口市立医療センター小児科で小児科医としての一步を踏み出すことができました。初めは初期研修医からのギャップに戸惑いもありましたが、上級医の先生方の優しく丁寧なご指導もあり、未熟ながら一所懸命に病気のこどもたちと向き合い充実した日々を過ごすことができました。専門はまだ決めておりませんが、特異な疾患に関しまして各グループの先生方にご指導いただき、幅広く経験を積むことができたと考えております。小児科医として毎日が新しい発見の連続でした。

後期研修2年目はNICUで研修させて頂いております。1年目とは全く違う分野で、不安もありますが、赤ちゃんたちの可愛さに癒されながらも、生と死と向き合い、刺激的な毎日を過ごしています。

まだまだ至らない点が多く、ご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、大好きなこどもたちにパワーをもらいながら、一人前の小児科医となれるよう精進して参ります。今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。



高瀬 千尋

出身大学：
富山大学
卒業年：
平成 27 年
初期研修病院：
東京医科歯科大学プログラム

平成29年度に入局させて頂きました、高瀬千尋と申します。出身は東京で、海外留学、社会人経験などを経て、30代で富山大学医学部に入学しました。

思い返すと、10代の頃から医師という職業に対して強い憧れを感じていたように思います。ただ、当時の私はフランスの教育システムに身を置いており、日本の大学の受験資格がありませんでした。医師になるなら患者さんやご家族の文化社会的要素をもきちんと理解して治療にあたることのできる日本がいいと思っていたので、一度は諦め別の進路に進みました。しかし、20代になり、帰国して社会人となってからも医師への憧れは強くなる一方で、仏大入学資格であるバカロレアが日本の大学の受験資格として認められるようになったのをきっかけに、思い切って医学部を受験することにしました。

実は、医学部に入学した当初、病気の子供を目の前にして冷静でいられる自信がなかった私は、小児科医にだけはならないだろうと思っていました。気持ちの変化があったのは、学生として小児科をローテートしたときです。それまでの想像とは裏腹に、子供に対しては、少しでも元気になって欲しいという純粋な思いで実習を頑張れることに気がつきました。そして、この先医師としてやっていく中で、こうした思いこそが自分にとって最も大切な支えとなるような気がしました。

現在は、土浦協同病院の小児科・新生児科で、優しく教育的なたくさんの先生方のもと、充実した研修生活を送らせて頂いています。要領が悪く理解も人一倍遅いため、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



深間 英輔

出身大学：
滋賀医科大学
卒業年：
平成 27 年
初期研修病院：
上尾中央総合病院

平成29年に入局させて頂きました深間英輔と申します。平成27年に滋賀医科大学を卒業し、もともと埼玉県出身であったので、初期研修は地元の上尾中央総合病院で初期研修を行いました。もともと子供が好きで、小児科医になりたくて医学部を目指しました。小児科とずっと決めていたので、初期研修は、成人について学ぼうと思ひ、救急と成人の総合診療に力を入れていた病院を選びました。救急車が一日あたり30から40台来る病院で、医師としてのタフさを鍛えられました。

小児科医になりたいという思ひは学生や初期研修の間も変わらず、昨年度から小児科医として働き始め、草加市立病院で後期研修を始めさせて頂きました。初期研修の期間で小児科をローテートしたのは一ヶ月しかなかったため、分からないことだらけや毎回の当直では不安だらけでしたが、上級医の先生方には優しく熱心に指導して頂き大変感謝しております。

今年の四月からは川口市立医療センターで研修させて頂いております。昨年度とは異なる病院の環境の中で、自分の至らなさを感じる場面も多々ありますが、早く上級医の先生方にお力添えをできるようになりたいと思っております。

まずは一人前の小児科医になれるように多くの患者さんからたくさんのお話を学んでいけるように努力したいと考えています。まだまだ至らない点ばかりでご迷惑をお掛けすることもあるとは思いますが今後ともご指導ほど、何卒宜しくお願い致します。

藤田 華子

出身大学：
群馬大学
卒業年：
平成 27 年
初期研修病院：
東京医科歯科大学プログラム

平成29年入局し三年目は土浦協同病院、四年目は川口市立医療センターNICUで研修させて頂いております。大学は群馬ですが、出身は神奈川県横浜市です。医科歯科大学の先生方は、研修医時代を振り返っても他大生に対してwelcomeな雰囲気を作ってください、小児科に入局したあとも変わらず大変感謝しております。

ご覧のとおり、私達の年は専門医制度変更の時期であった影響でしょうか、入局者が大変少ない年となってしまいました。同期と同施設で「わいわい」というのがなかなか難しいのですが、お互い協力し合っていける仲間になりたいと思っております。

今後の専門についてはまだ未定ですが、研修を続けている間にこれからの進路を見極めていきたいと思っております。